

インターバンクの声（2017年10月19日）

東京市場終盤からゆっくりドル買いに動き始めたドル円は、ニューヨーク市場の昼前に久しぶりに113円台を回復した。手放しでドル買いになるような展開ではないが、当初中国共産党大会の開幕に合わせて北朝鮮がミサイルの発射実験などの挑発行為に動くとの予想も、それどころか実際は北朝鮮が中国共産党大会開催に当たって祝電を送ったとの報道から一時的にせよ北朝鮮リスクが後退した影響は大きかった。

米長期金利もドル円が113円台に乗せるまでゆっくり上昇していたが、米金利の上昇は来月初めに発表されるはずの次期FRB議長にタカ派のテイラー・スタンフォード大学教授が選ばれるのではないかとの見方が背景にあるようだ。

またトランプ政権の税制改革に向けた協議が進展しているといった報道も追い風になっていた。

今週末の日本の総選挙予想も自民・公明の圧勝となっており、一時懸念された現政権の経済政策が大きく変わるリスクもほとんど消えている。しかし、こうした材料は何かあれば直ぐ真逆になる可能性もあり、上値は113円台止まりではないだろうか。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。